関高 SGH 情報　第 101 号

令和 2 年 3 月 18 日(水)
SGH プロジェクト委員会

今回は１年生課題研究のまとめです。

◇　令和元年度　ＳＧＨ活動を通して学んだこと

１年生は「SDGs とまちづくり」というテーマで１年間課題研究に取り組んできました。答えのない問いに対してグループで活動していく中でさまざまな困難や苦労に直面しましたが、それを乗り越え多くのことを学ぶことができました。以下は生徒の振り返りとルーブリックによる評価のまとめです。

●活動をする中で、何が一番大変でしたか？

・関市の課題が何かを見つけることが難しかった。
・どういうインタビューをすれば、地域の活性化という目標へのヒントが得られるのかを考えることが大変だった。
・テーマや目的にあった提案内容を考えること、または、まとめること。
・訪れる前にアポを取るために電話をすること、電話の仕方。
・計画を立てること。十分に立てたつもりでも、予想できないことが多かった。
・フィールドワークで出た課題を具体案として出していくなかで、疑問や不明点を減らしていくところ。
・さまざまなお店の方からお話を聞き、そこから共通している課題を見つけること。私たちができることは何かを考えることが大変だった。
・LGBT の調査を通して感じたことは、当事者の方とどういう風に接したらよいか、何が失礼にあたるのか基準がわからなかった。
・課題を見つけて、その解決方法をいろいろな視点から考えたこと。
・発表内容を考えるときに、どんなことをみんなに伝えるべきか悩んだ。

●その困難をどのように乗り越えましたか？

・ひとりで考えるのではなく、グループのみんなと話し合ったことで成功させることができた。
・できるだけ関わらないようにするのではなく、積極的に関わっていく中で、LGBT 当事者の方への接し方を学んでいけばよいという考え方に変わった。
・課題をただ広めるだけではなく、伝えるターゲットや目的を明確にしてパンフレットやポスターを作成した。

・班のみんなで相談して解決策を見つけた。
・インターネットで失礼のない話し方を調べてアポイントメントを取った。
・資料やインターネットを活用してみんなで調べて、意見を出し合った。
・フィールドワークで話を聞いて、そこから課題を見つけ出そうと話し合った。
・自分が消費者の立場になって考えて実際に利用することをイメージしていくことや、調査したメンバーそれぞれの感じ方、考え方を自由に出し合って、解決可能か不可能かで分けて考えた。
・グループの仲間と案を出し合う中で、高校生の私たちだからこその視点を大切にして解決策の案を出した。

●SGH 活動はあなたにとってどのような意味がありましたか？

・１つのことに対して長期的に考察し続けることの大切さや難しさを知ることができた。
・地域に対する思いや願いを改めて知ることができた。
・自分が将来やりたいことに通じるもので、企画をするということが、将来の自分のためになったと思う。
・意見を伝える側としての配慮や、意見を伝える側が持つ力を学んだ。
・いろいろな角度から物事を見る大切さを改めて実感した。
・地域貢献の大切さを知った。
・課題解決型研究を初めて行って、その答えがない課題について、考えて、考察して、みんなで解決策をがんばって出す粘り強さが身についた。
・自分の進路に向けての参考になった。
・たくさんのかたのお話を聞くことで、自分にはない考え方に触れられて視野が広がった。
・将来、地方公務員として働きたいという夢があり、地域の課題解決への取り組みは、将来に生きるいい活動だと思った。
・講演会を通して、努力をすることの大切さ、どんなことにも恐れずチャレンジしていくことが重要であることを学んだ。ただがむしゃらに頑張るのではなく、それを成し遂げるためのヒントや工夫を探し出すことも大切なことだと気づいた。
・難民の方についての講演を通して、自分が課題を見つけようと努力していなかっただけで、私たちにも救えたり、手助けができる課題はたくさんあると気づけました。ただ課題を見つけるだけではなく、それを解決するために形として残るものを作ったり、行動することが大切だとわかりました。
・日本や関市に今ある問題点を知り、それを踏まえて自分たちにできることはないかとじっくり考える時間があって、未来をイメージすることができました。自分が知らなかったことも多く知り、たくさんのお話や研究から「持続可能な社会のため」を考察できた。
・地域のことについて知ることもできたし、仲間との関係も良くなった。

●あなたにとっての課題はなんですか？

・自分ひとりで考え込まずに相手と話し合って理解し合っていくためにはどうすればよいか。
・関市の人口減少や高齢化を自分の身近なものとしてどう捉えていくか。考えるだけではなく、できることを探して行動に移していくこと。
・質問の余地がないくらいに、具体的に意見を詰めていくこと。グループ内でのより活発な意見の交流。
・課題を見つけることが難しく感じたので、もっといろんなことに目を向け、興味を持つこと。
・記述力が足りない。
・分かったことを、人にわかりやすく伝えることができるようになりたい。
・フィールドワークのときに、自分から質問することがあまりできなかったし、話すこともあまりできなかったので、自分から話したり意見を言えるようになりたい。
・多数の意見をまとめる力。
・いろいろな人の考えを取り入れて、自分の考えを深められるようにすること。
・いろんな視点から物事を考える力を身につけ、よりよい地域となるように自分ができることを探して行動したい。
・自分が決めた目標に対して、最後まで諦めずに努力し続けて、やり遂げられる力をつけること。
ある課題に対して、自分で考えて自分で解決できる力をつける。他人に任せず、自分の言葉で論理的にまとめる力。
・あまりニュースを見たりしないので、これからは社会で起きている問題や、自分の周りにある課題を見つけて積極的にボランティアなどに参加する。

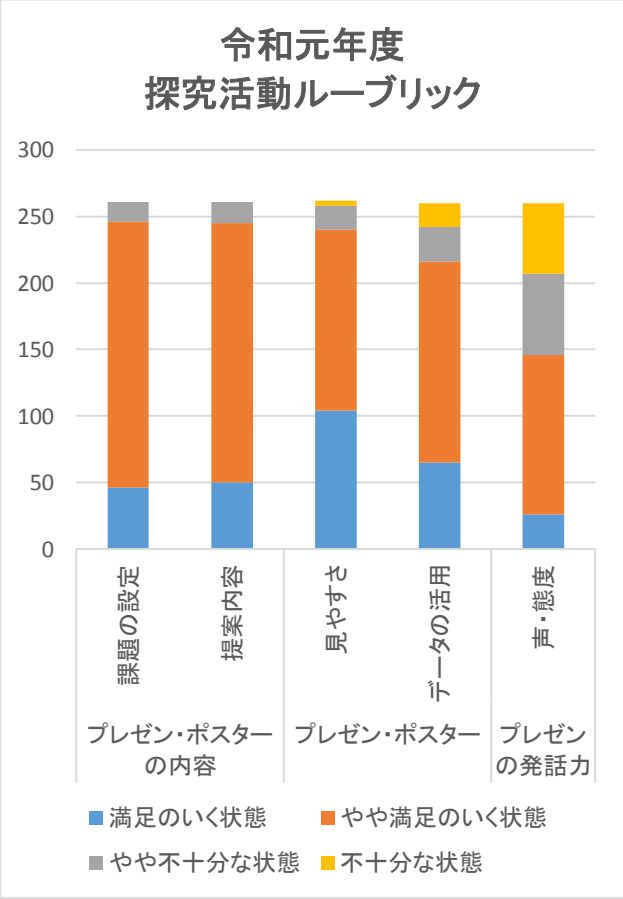
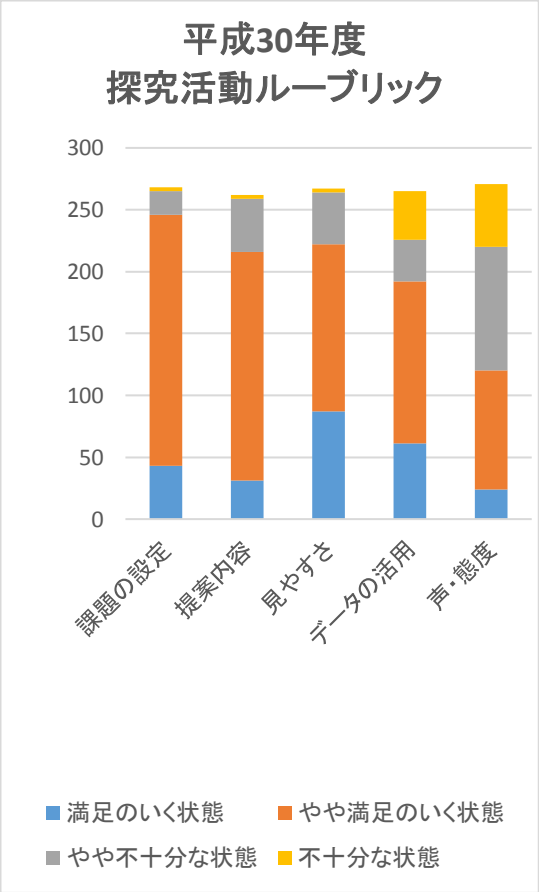
●ルーブリックによる評価

１年間の活動の評価として、生徒一人ひとりが課題の設定、提案内容、ポスターの見やすさ、データの活用、発表時の態度の５項目に対して、４段階評価を行いました。

結果を見ると、課題の設定や提案内容については満足度が高いことがわかります。アンケートの記述からもわかるように、同じグループの仲間と協力し合いながら解決策を見つけ出すことに充実感があったようです。またプレゼンやポスターの見やすさやデータの活用に関しては昨年度の１年生と比較して満足度が上がっているものの、まだまだ改善の余地があります。ただし見やすく綺麗な資料を作ることばかりに気を取られるのではなく、根拠を持って改善案を提案するために思考を深めることや、仲間と議論を重ねる時間も大切にしていきたいと思います。その上で、より見やすく、伝わりやすい簡潔な資料を作成できるとよいと感じます。発表の態度については、「やや満足のいく状態」が昨年度の１年生と比べれば増加していますが、他の項目と比べると満足度が低いままです。プレゼンテーションに慣れていないことが要因の一つとして考えられるため、各教科の授業など機会をとらえて指導していきたいと思います。また、自分の表現力やコミュニケーション力を客観的に且つ、肯定的に捉え、臆さず発表に挑戦する姿勢を身につけて欲しいと感じます。

使用したルーブリック↓

R1年度『SGH課題研究』の探究活動ルーブリック（日本語プレゼンテーション）

段階	大項目	小項目	満足のいく状態（4）	やや満足のいく状態（3）	やや不十分な状態（2）	不十分な状態（1）
日本語プレゼンテーション	内容	課題の設定	主張と根拠をつなぐ理由が論理的である。	主張に対する根拠が明確である。	主張に対する根拠が明確でない。	主張のみで根拠がない。
		提案内容	テーマに沿った提案内容となっており、アイディアの随所に工夫がある。	テーマに沿った提案内容であり、一部オリジナルの発想が盛り込まれている。	テーマに沿った提案からはずれている部分がある。	提案内容がテーマに沿っていない。
	スライド	見やすさ	箇条書きにまとめ、文字の配色の工夫、写真など視覚に訴える工夫が調所に見られる。	箇条書きにまとめ、文字は大きさや配色に工夫が見られる。	箇条書きにまとめてあり、分かりやすい。	情報量が多すぎで、分かりにくい。
		データの活用	グラフなどの調査に関わるデータが盛り込まれ、主張の根拠となっている。	グラフなどのデータに関する「タイトル・出典・数値」について説明がある。	グラフなどデータを提示しているが、説明がない。	グラフなどのデータの活用がない。
	発話力	声・態度	原稿を見ず、聞き手とアイコンタクトをとりながら、適宜ジェスチャーなどを使い、聴衆の理解を確認しながら話している。	原稿を見ず、ジェスチャーを取りまぜながら、積極的に話している。	原稿を見ずに説明しているが、棒読みである。	原稿を読む段階である。

集計結果↓